

本学における放射線取扱者個人管理システムの現状と課題

上村 実也

熊本大学工学部技術部 応用分析技術系

1. 概要

熊本大学では、2002年度に放射線業務従事者個人管理システムのパッケージソフトを導入し、翌年度から本格的な運用を開始した。現在の放射線業務従事者数は約2千人であり、この放射線業務従事者の個人管理を所属部局10部局分、アイソトープ施設4施設分、健康管理部局2部局分、産業医2名分の18クライアントで行っている。

本システムは、web データベース型のものであり、学内 LAN を介して放射線業務従事者個人情報を実タイムに収集・閲覧・分析できるのが最大の特徴である。

今回は、このシステムを運用する中での課題について報告する。

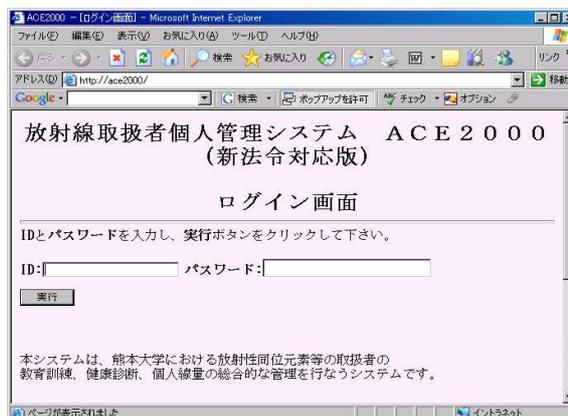


図1 個人管理システムログイン画面

2. 課題及び方策

① データベースを最新の状態に保つためのデータソース収集方法の検討

このシステムでのデータソース収集は、登録施設毎に当該施設への登録申請者の個人情報を1件ずつ入力する方法と例えば所属講座単位毎の個人情報を一括入力する方法が用意されていたが、いずれの方法も、データ作成時において多大な労力が必要であり、リアルタイムでのデータソースの収集が困難な状況が続いている。そこで、登録申請者が本システムとは別に設置した web サーバに直接アクセスして個人情報を入力することで、データソースを円滑に収集できる環境を構築することを考えた。

また、教育訓練受講に係るデータ登録作業についても仕様は1件ずつの手作業による入力作業であったが、受講者の氏名等の一部のデータを事務部側で入力してもらい、このデータと本システム内のデータベースを連結させることによりデータ登録作業を一括で行えるようにした。

今後は、これに加えて、web 版教育訓練システムとの連携を図ることで一層の省力化とリアルタイムでのデータソースの収集を実現できると考える。

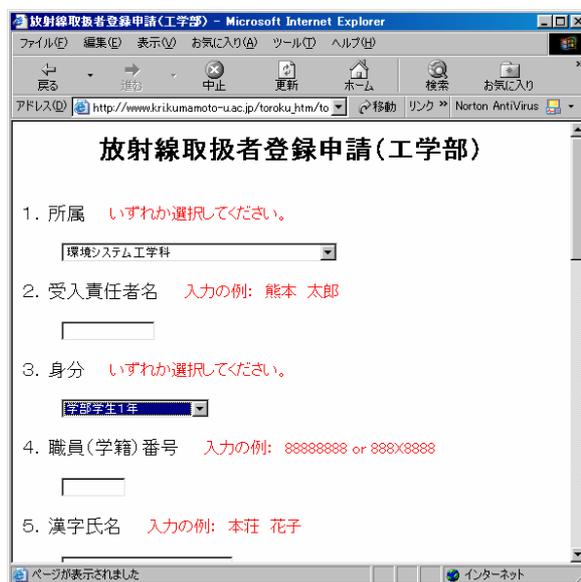


図2 web 登録画面

